

# 日仏会議

## 「アルミ水素」に興味

### アルハイテック(高岡)が紹介

新エネルギーの普及を目指す日本とフランスの政府間会議が6日、オンライン

で開かれ、廃アルミから水素を生み出すベンチャー企業、アルハイテック(高岡市オフィスパーク)が事例を紹介した。日仏の関連企業が連携を強化し、水素社会への取り組みを加速させることで一致した。

日仏の計6社が水素エネルギーの普及に向けた事業内容や展望を発表。トヨタ自動車や川崎重工業、産業ガスのエア・リキードなど大手が名を連ねる中、県内ベンチャーが招かれた。

アルハイテックの水木伸明社長は、廃アルミとアルカリ溶液を化学反応させることで、製造過程で二酸化

炭素が出ないアルミ水素の特長を説明。現在実用化されている水素は、輸送や貯蔵に膨大なコストがかかっている。水素ではなくアルミを運び、「使う場所ですべて燃やして」の発想に転換すべきだ」と提言した。

水素の供給コストは日仏共通の課題で、会議の参加者からは「興味深い」という感想が聞かれた。トヨタは2024年のパリ五輪に向け、フランスで燃料電池車のバスやタクシーの普及に取り組んでいることを紹介。川崎重工は水素だけを燃やし、効率良く発電できるガスタービンの開発を急いでいることを報告した。

オンライン会議でアルミ水素の有用性を発表する水木社長(左)とアルハイテック

